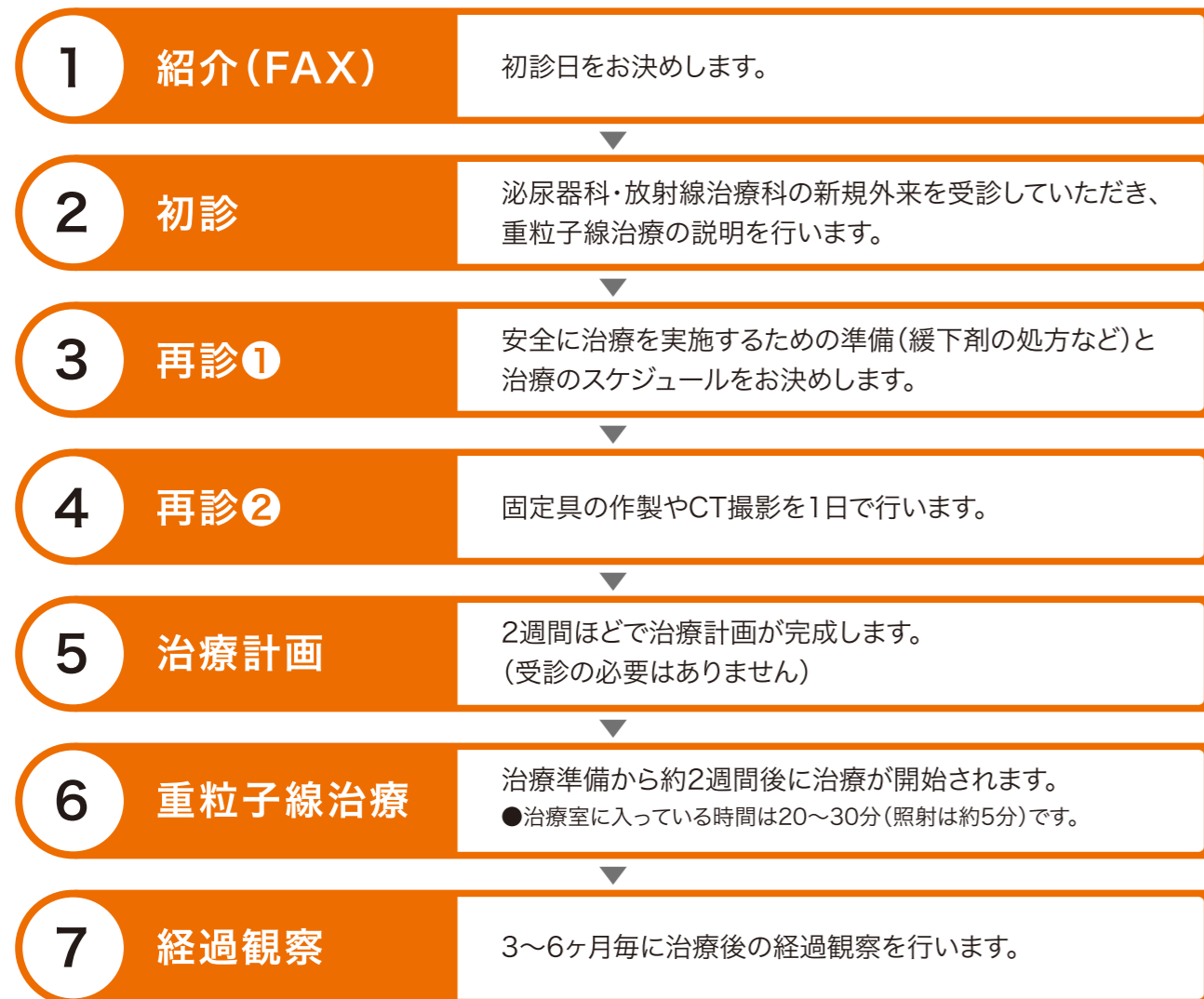


➤ 前立腺がん 治療の流れ

まずは主治医、お近くの専門医(泌尿器科)の先生にご相談ください

※地域医療機関からのご紹介による外来予約を、地域医療連携センターで行っています。



前立腺がん治療予約 78名(2020年12月18日現在)

寄附のお願い

山形大学医学部では、重粒子線がん治療による福祉の向上・発展のために、寄附金の募集を行っております。税制上の優遇措置などもあります。皆さまのご理解・ご協力をお願いいたします。

寄附者の顕彰(1万円以上ご寄附いただいた方々を対象)

ご厚意に感謝の意を含め、ご寄附いただきました方々のご芳名を山形大学医学部東日本重粒子センターおよびホームページに承諾の上、掲載させていただきます。
▶ 詳しくはホームページでご確認ください

お問い合わせ

- 発行元：山形大学医学部東日本重粒子センター
- 電話：023-628-5404
- 住所：〒990-9585 山形県山形市飯田西2-2-2
- 受付時間：午前9時 - 午後5時(土日祝日は除く)
- URL：http://www.id.yamagata-u.ac.jp/nhpb/
- Eメール：heavy-ion@mws.id.yamagata-u.ac.jp



山形大学医学部 News Letter
東日本重粒子センター
East Japan Heavy Ion Center 2021年 Vol.06

重粒子線治療について患者さんと市民、医療関係者の情報共有くらぶ

11月1日から前立腺がんに対する紹介受付を開始しました。



前立腺がんに対する重粒子線照射は、2021年2月下旬より固定照射室で順次実施します。また、保険適用での治療は、2021年4月となる見込みです。前立腺がん以外の治療については2021年夏を予定しております。

➤ メッセージ寄稿



「照射開始に向けた先行治療が始まりました」

山形大学医学部附属病院長
佐藤 慎哉
Satou Shinya

山形大学医学部が2005年から導入計画を開始した重粒子線治療装置がいよいよ稼働します。山形大学医学部東日本重粒子センターには、主として前立腺がんの治療を行う固定照射装置と、頭頸部・骨軟部のがん、肝臓や膵臓、肺のがんなどの治療を行う回転照射装置の二つの照射装置が設置されていますが、2021年2月にはまず固定照射装置が、8月には回転照射装置が稼働予定です。前立腺がんの重粒子線治療の前には数カ月のホルモン治療を行う必要があり、9月からホルモン治療が開始されました。

重粒子線治療は、従来の放射線治療に比べてがんの周囲にある正常組織への影響も少なく、治療期間も短

期間でありながら同等あるいはそれ以上の治療効果が期待される優れた治療法です。これまで放射線が効きにくかったがんへの効果も認められています。これまで東北・北海道には重粒子線治療施設がなく、治療を受ける機会も制限されていましたが、これでその制限もなくなります。News Letter 3号にも紹介されていますが、東北地方には、患者さんが住んでいる地域にかかわらず最適な放射線治療を受けられるように、東北6県の他60以上の基幹病院が連携し「広域がん放射線治療ネットワーク」を構築しています。このようなネットワークを通じて、一人でも多くの患者さんに最先端の治療を受けていただくことを期待しています。

✦ 東北芸術工科大学と連携したセンターデザインについて

山形大学と東北芸術工科大学の共同記者会見が行われました。



東日本重粒子センターの院内サインの新規創出について

山形大学 医学部附属病院副院長
欠畑 誠治 Kakehata Seiji

山形大学と東北芸術工科大学とのコラボレーションで、従来の院内サインのあり方を根本から見直し、「医療」と「芸術」を融合し再構築した、斬新で画期的な「医療空間」の創出を目指しました。重粒子センター(HIC)の先端性・唯一性・未来性を、この院内サインで表現すること。重粒子センターをスペースシップと

見立て、このスペースシップに乗り込み、人類の英知の結晶である重粒子治療でがんを戦う「旅」にでる。最先端の医療でがん治療に臨み、「笑顔」で帰って来ることがこの「旅」のミッションです。患者さんのがんを戦う決意と勇気を後押しする、そんな院内サインになったと思っています。

東北芸術工科大学 デザイン工学部
グラフィックデザイン学科 学科長/教授
原 高史 Hara Takahumi

山形大学医学部附属病院の院内サインを2017年度より始動。患者さんやお見舞いにくる方に「わかりやすく、安らげる、やさしい院内環境」を実現化し、山形大学医学部附属病院が生まれ変わりました。2020年世界最先端の重粒子線がん治療を行う山形大学医学部東日本重粒子センターの稼働に向けて、従来の病院内サインのあり方を根本から再構築することで「医療」と「芸術」の融合の一つの形を斬新な医療空間として具現化しました。重粒子センターを「スペースシッ

プ」と見立て、重粒子線治療に臨む患者さんたちに勇気を与え、その一方で信頼感・安心感を覚えるサインを創出しました。スペースシップに乗ってがん治療から帰還する「笑顔で帰れる病院」をコンセプトに重粒子サイン制作に取り組みました。患者の皆さんはもちろん、患者の家族や病院で働く方々にとっても、より良い環境を作り、他にはない新たな病院の取り組みと新たな空間作りをこれから県内外に発信していきたいと思っています。

附属病院と東日本重粒子センターをつなぐ渡り廊下

附属病院と東日本重粒子センターをつなぐ66mの渡り廊下には、宇宙船の窓から見える景色が描かれています。



重粒子センター内部

重粒子センター入口の自動ドアには、新たに制作されたセンターロゴを設置しております。



5つの診療室と8つの治療待機室がございます。受付ホールには太陽系の惑星を表したタペストリーが飾られており、8つの治療待機室とリンクしております。

